

畑地かんがい用水の“ため池”

～笛吹畑かんファームポンド～



ファームポンドにはオープン型、クローズ型、ドーム型といった様々な構造のものがあります



ファームポンドは受益地の高台に設置され、高低差を利用して自然流下させています

畑かんの水は、スプリンクラから散水されます。畑かんは農地を潤し、生産を支える重要な施設です。



畑地かんがいの恵み

甲府盆地東部に位置する峡東地域は、ももやぶどうの栽培が盛んな果樹地帯として、広く知られています。この日本の産地をはじめとした5市1町の畑地に農業用水の供給を行っているのが**笛吹川畑地かんがい**（笛吹畑かん）で、産地の農業生産を支えています。

笛吹畑かんでは、約4000haの受益地を地形条件などにより21の区域（分水区）に分けています。それぞれの分水区の農地には、幹線水路から分岐し網の目のように張り巡らされたパイプラインから用水が送られています。また、各分水区の上流部には、幹線から送水された用水を一時的に貯める「**ファームポンド**」と呼ばれる調整池が設置されています。

畑かんの調整役を担う

ファームポンドの多目的な活用

笛吹畑かんの幹線水路には、広大な受益地の水需要に 대응するため、広瀬ダムを水源とした大量の用水が流れ込みます。ファームポンドは、こうした大量の水の動きをよわらげ、水の圧力や流れる速さを抑え、安全で安定した配水を行うための調整役を担っています。

つまりファームポンドは、農地に配水するため小分けにされた水流と、幹線の大きな水流との間の「緩衝材」のような役割を果たしているといえるでしょう。また、各ファームポンドには、大量の水を貯めることができ、ダムやため池のような機能を持つことから、緊急時の防火用水としての利用や、広い敷地を利用して太陽光発電施設を設置するなど、様々な利活用が図られています。

多目的利活用

防火利用



笛吹畑かんを管理する笛吹川沿岸土地改良区と地域の消防組織の間では、緊急時の水利用に関する協定が結ばれており、ファームポンドに貯えられた水は、防火用水としても利用されます。また、地元の消防団との共同訓練も行うことで、畑かんやファームポンドが地域にとって重要な施設であることを啓発することにもつながっています。また大規模な山林火災の際には、ファームポンドの水をヘリコプターにより搬送して、消火活動に活用されたこともあります。

太陽光発電



クローズ型ファームポンドの上面は、コンクリートの平坦な敷地となっているため、太陽光発電施設が整備されています。発電した電力は、揚水ポンプの駆動に用いられ、売電による収益で、土地改良区の運営に活かされたりしています。

啓発・地域との連携

学びの場



ファームポンドを学びの場として、子どもたちに対し、笛吹畑かんの役割や重要性を説明しています。このような取り組みを通し、将来にわたり農業用水が守られることが期待されます。

地域住民による維持管理



笛吹川沿岸土地改良区とファームポンドが所在する地域の間で、維持管理協定を結ぶことにより、ファームポンドを地域の人々の手により管理する取り組みが行われています。